

高知県に於ける音楽事業の分析

-ライブハウスを対象として-

1190476 崎田 紗令

高知工科大学経済・マネジメント学群

1. 概要

ライブ・エンタテインメント市場（音楽コンサートとステージでのパフォーマンスイベントのチケット推計販売額合計と定義とする）は現在成長し続けている（図1-1）（ぴあ, 2018）。しかし、一方ライブハウスは閉店傾向にある。例えば、2017年に全国で閉店したライブハウスの数は11軒に対し開店数3軒、2016年は閉店数14軒・開店数6軒と減少していることが分かる（開店閉店, 2018）。そんな中、高知県では人口が自然減少しているにも関わらず、2018年三月上旬に新たなライブハウスが一軒誕生した。このことから、ライブハウスの経営に於いて地域特殊性があるように見受けられる。そこで本研究では、高知県のライブハウスに於いて、どのような地域特殊性があるのか明らかにすることを目的とする。本研究の結果、高知県はアマチュアに根差すことによって、さらにその中でもジャンルを絶妙に棲み分けている。この様に、高知県のライブハウスに於ける地域特殊性を明らかにすることができた。



図1-1 ライブ・エンタテインメント市場規模の時系列推移

2. 背景

日本の音楽産業は順調に拡大している。コンサート・ライブ売上高、音楽配信売上高、音楽ソフト生産高の合計は、2015年に6,202億円（前年比8.3%増）となり、20

05年以降最高の金額となった（図2-1）（音楽産業, 2016）。内訳をみると、2006年以降大きく成長しているコンサート・ライブ売上高が伸び続けており、音楽ソフト生産高を上回る水準になっている（図2-2）（音楽産業, 2016）。ライブ市場は拡大が続いている模様である。しかし、全国的に会場となるライブハウスは閉店傾向にある。そんな中、概要で述

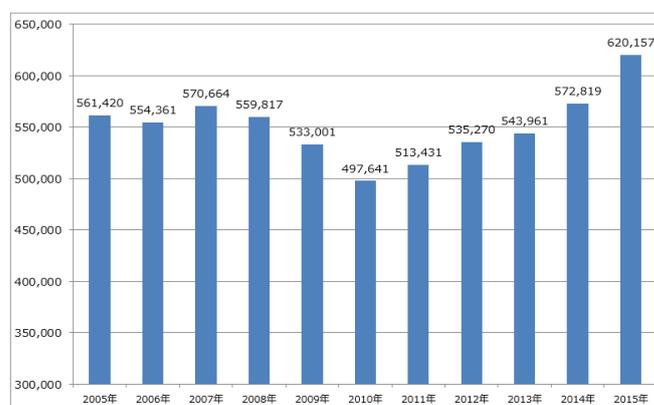


図2-1 日本の音楽産業

（音楽ソフト生産高、音楽配信売上高、コンサート・ライブ売上高の合計、暦年、単位：百万円）



図2-2 日本の音楽産業

（単位：百万円、暦年、出所：音楽ソフト生産高、音楽配信売上高は日本レコード協会、コンサート・ライブ売上高はコンサートプロモーターズ協会）

べたように人口が自然減少しているにも関わらず、高知県ではライブハウス「高知X-pt」が展開する新ハコ、LIVE HOUSE ri:ver が誕生した。

3. 目的

そこで本研究では、高知県と香川県のライブハウスを対象として比較し、高知県のライブハウスに於いて、どのような地域特殊性があるのか明らかにすることを目的とする。

4. 研究方法

本研究では、ロックやジャズなどのライブやその他イベントを行う、比較的小型で立ち見中心のコンサートホールをライブハウスの定義とする。

本研究を行うに当たって、香川県のライブハウスと比較検討を行う。比較対象を香川県とした理由は、同じ四国内であり、最も四国の音楽シーンを盛り上げているためである。中でも、毎年香川で開催される MONSTER baSH は中四国最大級の野外ロックフェスティバルであり、今年 19 回目の夏を迎える。ここ数年チケットは早々に完売、来場者数は延べ 65 万人を超えた。また 2016 年 3 月 10 日四国最大級のライブハウスが香川県に誕生した。

以上より、音楽シーンが活発な香川県を比較対象とすることで高知県の地域特殊性が顕著に表れると考えた。香川県と比較検討を行うに当たって、本研究では図 4-1 の分析フレームワークに従う。

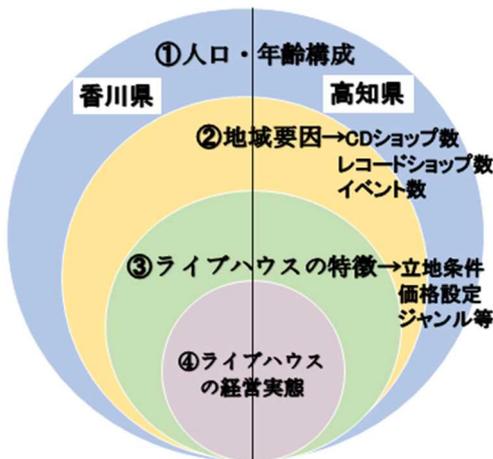


図 4-1 分析フレームワーク

表 4-1 1 年以内にお金を支払った音楽商品・サービス (全年代)

	全体	10代	20代	30代	40代	50代
	n=10,695	n=713	n=1,987	n=2,459	n=3,053	n=2,483
CD購入	35.8%	44.9%	38.4%	34.1%	34.4%	34.7%
CDレンタル	29.3%	39.6%	37.3%	32.3%	25.8%	21.2%
音楽DVD/Blu-ray購入	20.9%	34.8%	25.6%	19.7%	18.6%	17.5%
音楽DVD/Blu-rayレンタル	14.9%	26.6%	19.0%	14.5%	12.9%	10.9%
ライブ	23.8%	38.7%	31.8%	22.7%	19.4%	20.0%
音楽フェス	10.1%	22.0%	16.9%	11.1%	5.9%	5.6%
デジタル音源(ハイレゾを除く)	17.9%	20.5%	25.4%	20.5%	16.0%	11.0%
ハイレゾ音源	6.8%	12.1%	11.0%	7.7%	4.8%	3.5%
定額制音楽配信サービスの月額料会	11.2%	15.4%	17.5%	11.6%	9.2%	7.1%
アーティストグッズ	17.3%	41.2%	26.0%	16.7%	12.6%	9.5%
ファンクラブ	13.9%	28.5%	20.6%	13.6%	10.4%	8.8%
音楽雑誌	9.7%	24.1%	13.4%	9.7%	6.4%	6.1%
デジタル映像	11.9%	20.8%	15.9%	12.1%	9.6%	8.8%

具体的に以下に示す。

- ① 人口・年齢構成が動員数に大きく影響すると考えられる。ライブという項目にお金を支払っている割合が高い 10 代 20 代に注目し両県の比較を行う (表 4-1) (MMD 研究所, 2017)。
- ② 地域要因 (CD/レコード店舗数・音楽イベント数・入込数) の違いから地域性・県民性を理解する。
- ③ 立地条件・ホールレンタルの価格設定・音楽のジャンルを比較し、高知県県ならではのライブハウスの特徴を掴む。

5. 比較検討分析

比較対象とするライブハウスの詳細は、高知県 (①高知キャラバンサライ②ri:ver③X-pt④BeeStation⑤BAY5 SQUARE⑥シャララ⑦劇場歌小屋 2 階⑧PARADAIGM⑨ B. B. CAFE&HALL⑩高知 CHAOTIC NOISE) 計 10 軒、香川県 (①festhalle②高松 DIME③高松 MONSTER④高松オリーブホール⑤高松 TOONICE⑥GET HALL⑦Music&Live RUFFHOUSE⑧ビートルズ⑨サウンドスライジン) 計 9 軒である。

5. 1 人口・年齢構成

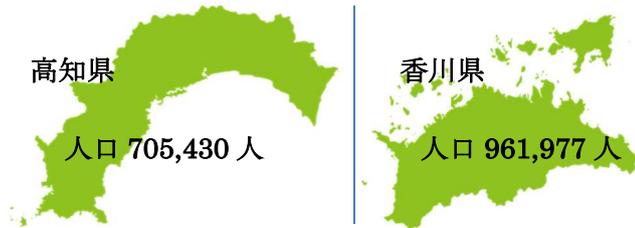
高知県は人口 705,430 人に対してライブハウス数は計 10 軒、一方で香川県は人口 961,977 人に対してライブハウス数は計 9 軒と、香川県は高知県の人口を上回っているがライブハウスの数は 1 軒少ない (高知県, 2014) (香川県, 2015)。

図 4-1 のフレームワークに従い、続いて年齢 (5 歳階級) 人口を比較する (表 5-1) (e-Stat, 2017)。県全体の人口同様、ライブ市場のターゲットである若い世代 (10 代~2

0代)も香川県が53,000人上回っている。また、30代～50代も同一である。これらを総合して、ライブハウス一軒当たりの人口を求めると高知県の方が36,343人少ない。

表5-1 都道府県別 年齢(5歳階級)人口

単位(千人)	総数	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳
平成26年											
香川県	981	46	46	40	42	52	64	71	59	56	62
高知県	738	32	34	28	29	36	45	50	42	44	48
平成27年											
香川県	995	49	46	40	49	51	61	72	60	57	61
高知県	746	34	31	28	28	36	43	50	42	44	47
平成28年											
香川県	972	43	47	37	43	50	59	72	65	55	59
高知県	721	30	33	26	28	34	40	50	45	42	46
平成29年											
香川県	967	43	47	38	41	49	56	71	67	56	58
高知県	714	29	33	26	27	33	39	49	46	42	45



5. 2 CDショップ(TSUTAYA)&レコードショップ店舗数の比較

以下に示すものは全て中古店を除く。

CDショップは香川県に比べ、高知県が4店舗多い。

高知県はTSUTAYAが計16店(葛屋書店フジグラン四万十, 葛屋書店フジグラン葛島, 葛屋書店フジグラン高知, TSUTAYA 御座店, 高知葛屋書店, フジグラン野市, 潮江店, 野市店, 四万十店, 須崎店, いの店, 高岡店, 南国店, 土佐道路店, 安芸店, 中万々店)+HMVイオンモール高知の計17店である。

一方、香川県はTSUTAYAが計11店(TSUTAYA 宇多津店, 西宝店, 観音寺店, 屋島店, 丸亀群家店, 屋島店, 西宝店, フジグラン十川店, サンシャイン通り店, ビデオ100 さぬき三木店, 坂出店, 丸亀南店, 丸亀土器店)+デュークショップ高松店+タワーレコード高松店の計13店である。

レコードショップは両県ともに各4店舗と大差はない。

詳細は以下の通りである。

高知県は(シルキーレコーズ, ポップインミュージック, マッシュルームレコード高知店, MasacasaMusic)計4店。

香川県も(ルーツレコード, マッシュルームレコード, TOONICE, ヴォイスレコード)計4店。

CDショップ数には大きな差があり、地域要因として高知県は香川県に比べ、音楽が生活に根差していると推察される。

5. 3 音楽イベント

高知県では6つの音楽イベントが開催されている。野外音楽フェスティバル「MusicWonderland」「高知街ラ・ラ・ラ音楽祭」「川じゃんロックフェス」(高知新聞, 2006)(高知街ラ・ラ・ラ音楽祭, 2018)(毎日新聞, 2018)。「カジロックフェスティバル」は音楽+フィールド体験が出来る(地元びいき, 2014)。「∞souls∞」は中高生限定のサーキットイベント, 「LOU DOG PARTY」2017年10月15日初開催されたサーキットイベントがある(ありんど高知, 2019)(DxAxM, 2017)。一方、香川県では3つの音楽イベントが開催されている。野外音楽フェスティバル「shimafes」(島フェス, 2011)。「サヌキロック」は延べ500組以上のアーティストが出演する7会場を使ったサーキット形式のイベント, 「モンスターバッシュ」2000年8月20日初開催の大イベントがある(サヌキロックコロシウム, 2018)(モンバス, 2019)。サヌキロックとモンスターバッシュに関しては、DUKEが大元の主催者である。DUKEとは、年間250本・30万人(2000年度コンサート実績)の動員をサポートする、四国エリア最大の総合エンターテイメント企業だ(voistage)。そのため、この2大イベントはその他のイベントとは異なり、メジャーアーティストが多数出演。また、地元人だけでなく、関西圏から多くの方が来場するため来場者数がひとときが多い。

音楽イベントに関しても、前節と同様に高知県は香川県に比べ、音楽が生活に根差していると推察される。

5. 4 ホールレンタル&スタジオの価格設定

両県の全ライブハウスのホールレンタル料金を平日料金, 30分毎と条件を統一し、平均値を求めたところ差額-¥1,174高知県が安価だった。計算結果は以下に示す。

高知県 10軒平均 ¥6,592

香川県 09軒平均 ¥7,766

続いて、高知県 X-pt と香川県オーリーブホールを比較。この2軒を抽出した理由は、料金表一覧の中にアマチュアもしくは地元バンド応援プランを設けているからである。条件はキャパ350人のライブハウスであること・平日料金・30分毎とする。計算結果は以下に示す。

高知県 利用時間 13:00 から 22:00

平日料金 ¥130,000

30分毎 ¥7,222

香川県 利用時間 10:00 から 21:30

平日料金 ¥200,000

30分毎 ¥8,695

結果、キャパ数統一という条件を加えても高知県が約1,500円安い。次に、スタジオを併設しているライブハウスのスタジオ価格の比較を行った。条件を1時間毎、平日料金。スタジオ貸し出しをしているライブハウスとした。高知県には計4軒（キャラバンサライ・river・BAY5・BeeStation）、一方で香川県には計2軒（ライジーン・TOONICE）。結果は高知県がー¥675安価である。計算結果は以下に示す。

高知県 平均 ¥1,200

香川県 平均 ¥1,875

価格設定の比較結果から、ホールレンタルとスタジオ貸し出し共に高知県の方が安価である事が判明した。プロのように音楽そのものだけで得られる収益がないアマチュアにとって利用しやすい価格設定を高知県はしている。

5.5 立地条件

両県、市内の商店街付近に集中的に立地している。香川県は全ライブハウス（9軒）が高松市にあり、高知県も同様全ライブハウスが市内にある。必ず電車またはバス等、車がなくても来場することが出来る場所に立地している。立地条件に大きな差異はない（図5-1）（図5-2）（イープラス）。

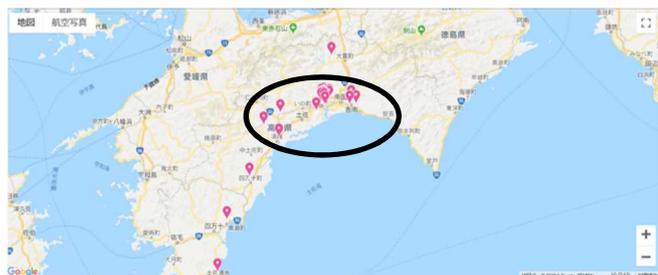


図5-1 会場マップ（高知県）

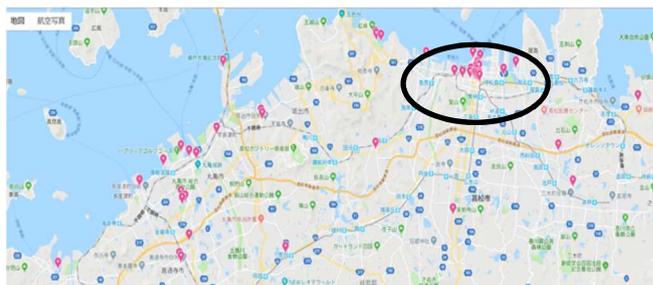


図5-2 会場マップ（香川県）

5.6 キャパ数

全ライブハウスのキャパ数を合計結果は高知県が計1,870人、一方で香川県は計2,890人となった（図5-3）。高知県は比較的小型である。

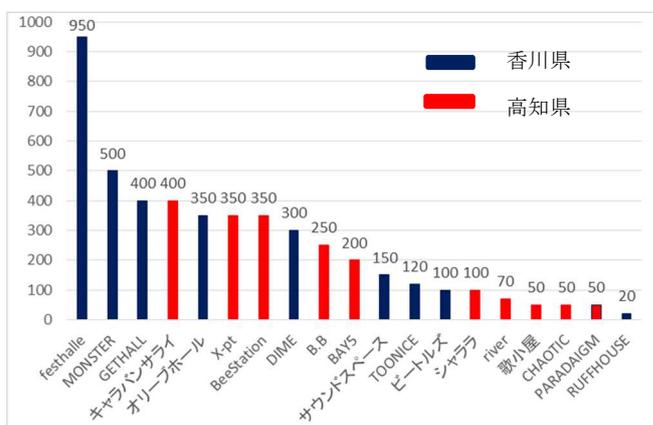


図5-3 キャパシティ

5.7 ジャンル・過去出演アーティスト

2019年1月から3月までの過去出演アーティストを集計し、ジャンル分けして示したところ、高知県は、Jポップ&Jロック、フォークそしてジャズの3つのジャンルから構成されている（図5-4）。詳細としては、Jポップ&Jロックに重きを於いているのは、計4軒（高知キャラバンサライ、river、X-pt、Bee Station、BAY5 SQUAR）。フォークを中心としているのは、計4軒（PARADAIGM、B.B.CAFE&HALL、劇場歌小2階、CHAOTIC）。唯一ジャズを楽しむことができる1軒のライブハウスはシャルルである。一方で香川県は、Jポップ&Jロックに特化している（図5-5）。9軒中7軒のライブハウスがJポップ&Jロック中心のライブスケジュールである。（Festhalle、DIME、高松 MONSTER、GET HALL、高松オーリーブホール、TOONICE、ライジーン）。残り2軒（RUFFHOUSE、ビートルズ）はフォークに重きを於いている。

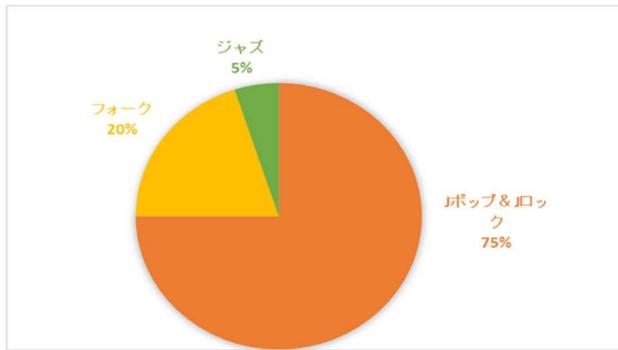


図 5-4 ジャンル比率 (高知県)

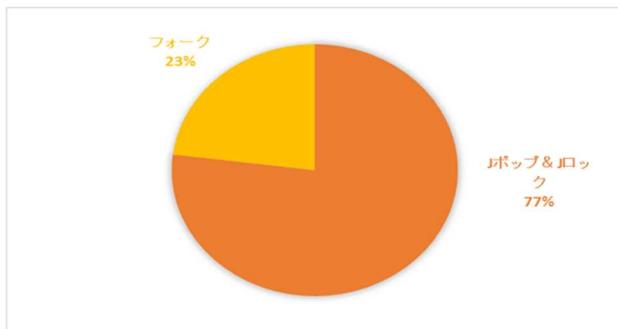


図 5-5 ジャンル比率 (香川県)

続いて、両県の全ライブハウスの2019年1月に出演したアーティストを、メジャーデビューしているものをプロとし、その他インディーズはアマチュアとして分類し集計した(図5-6)(図5-7)。

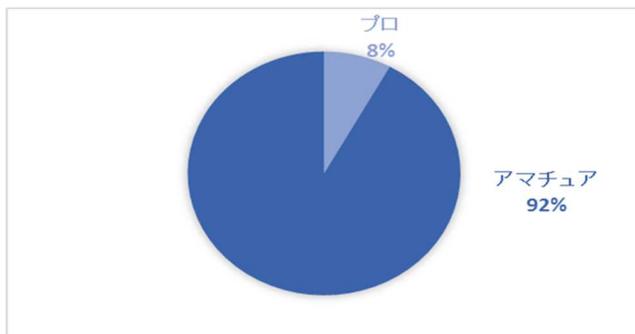


図 5-6 プロ度アマチュア度の比率 (高知県)

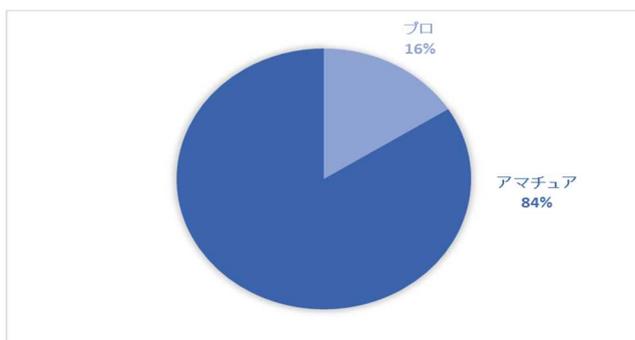


図 5-7 プロ度アマチュア度の比率 (香川県)

以上の結果から、プロの出演率が香川県は高知県の二倍であり、香川県の方がメジャーアーティストをブッキングすることに高知県より長けている。香川県に対して高知県はアマチュアをベースとしている。

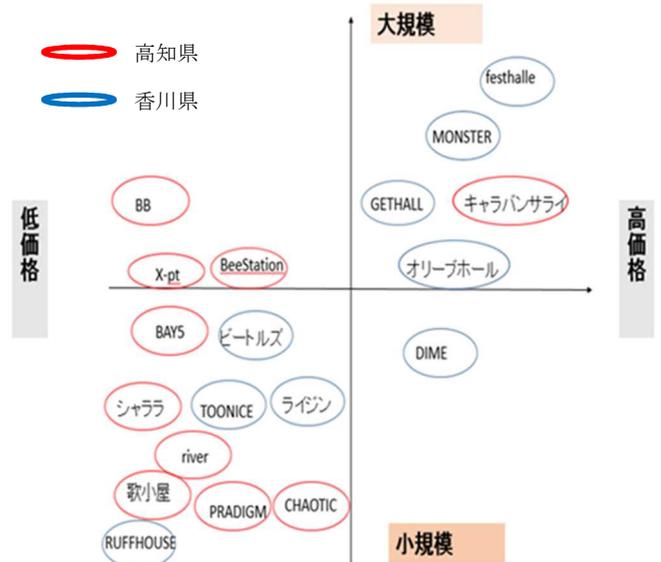


図 6-1 マーケティング分析

6 考察

比較検討分析から、両県ともに音楽の地域特殊性があり、それらは日常生活の中の音楽の位置付けからきていると考えられる。

高知県は、生活の中に音楽が根ざしているためアマチュアの文化が旺盛であり、小型+安価とアマチュアに見合ったライブハウスの経営を行っている。また、アマチュアをベースとしているが故に、細分化されたジャンルごとに絶妙に棲み分けることによって、人口が少なくても観客を争奪しあうことを避け、各ライブハウスの経営が成り立っている。

その真逆が香川県である。香川県は生活の延長線上ではなく、別の次元に音楽がある。つまりプロ趣向であるため、ライブハウスの特徴は大型+高価格で競争し合っている(図6-1)。香川県はジャンルや価格設定等のセグメントがかぶっても、人口が多いため経営は成り立つと考えられる。

7. 結論

本研究を通して次のような成果が言える。

日常生活に於ける音楽の趣向が違うことを明らかにした。さらにライブハウスの経営に於ける両県の地域特殊性を明らか

にした。特にマーケティングが弱い高知県にも関わらず、音楽のジャンルに基づき絶妙に棲み分けていることを明らかにした。

一方、今後の課題は高知県と香川県に地域特殊性があることから他県でも地域特殊性があるか、その一般性を検証する必要がある。

参考文献

1. ACPC「ライブ市場調査データ」,
<http://www.acpc.or.jp/marketing/>
2. BAY5 SQUARE (2015)「BAY5 SQUARE」,
<http://bay5square.net/>
3. BEATLES「ライブハウス BEATLES」,
<http://ew.sanuki.ne.jp/live.btl/>
4. BeeStation (2016)「BeeStation」,
<http://www.beestation.jp/>
5. CARAVAN SARY (2007)「CARAVAN SARY」,
<http://www.caravansary.jp/sary/topsary>
6. DIME (2004)「DIME」,
<http://www.dime-dime.com/index-pc.html>
7. DUKE (2013)「高松 sound space RIZIN」,
<http://www.duke.co.jp/hall/detail/82>
8. duke (2003)「SANUKI ROCK COLOSSEUM」,
<http://www.duke.co.jp/src/>
9. DxAxM (2016)「LOU DOG Birthday Party」,
<http://www.drugandmusic.com/?p=611>
10. e-Stat「人口推計 010 都道府県、年齢 (5歳階級) 男女別人口」,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/database?page=1&toukei=00200524&tstat=000000090001>
11. e+「香川県のライブハウス・コンサートホール・会場ガイド」,
<https://eplus.jp/sf/venue/chugoku-shikoku/kagawa>
12. e+「高知県のライブハウス・コンサートホール・会場ガイド」,
<https://eplus.jp/sf/venue/chugoku-shikoku/kochi>
13. FaceBook「ライブハウス高松ビートルズ」,
<https://ja-jp.facebook.com/takamatubeatles/>
14. FaceBook「劇場歌小屋の2階」,
<https://ja-jp.facebook.com/utagoyanonikai/>
15. festhalle「festhalle-フェストハレ」,
<http://festhalle.jp/>
16. GET HALL「香川県高松市のライブハウスならゲットホール」,
<http://get-hall.com/>
17. gogi.jp (2019)「四国最古のレジェンド的なライブハウス 高松 BEATLES が 熱 い」,
<http://gogi.jp/2015/09/24/beatles/>
18. k-clubbarmyarmy (2019)「高知 CHAOTIC NOISE」,
<https://kclub.exblog.jp/>
19. kc-lalala (2002)「高知街ラ・ラ・ラ音楽祭」,
<http://www.kc-lalala.com/>
20. LiveFans (2018)「高松 DIME の座席、キャパ、アクセス、コンサートスケジュール」,
<http://www.livefans.jp/venues/3030>
21. LiveFans (2018)「高松 MONSTER の座席、キャパ、アクセス、コンサートスケジュール」,
<http://www.livefans.jp/venues/3031>
22. livewalker.com「sound space RIZIN」,
<https://www.livewalker.com/mdata/detail.aspx?i=21835>
23. MMD 研究所 (2017)「年代別音楽に関する意識調査」,
24. NAVITIME (2019)「高松モンスター」,
<https://www.navitime.co.jp/poi?spt=02022.1113627>
25. palm records (2007)「パームレコーズ」,
<http://palm-records.com/?mode=f1>
26. peps「PARADAIGM」,
<http://x95.peps.jp/paradigm11>
27. RUFFHOUSE (1999)「高松 RUFFHOUSE」,
<https://www.barruffhouse.com/>
28. Recoya (2018)「高知のコードショップガイド」,
<https://recoya.net/japan/kochi>
29. shima fes (2011)「島フェス」,
<http://shimafes.jp/>
30. sound space RIZIN「RIZIN」,
<http://soundspacerizin.world.coocan.jp/>
31. soundlover.net (2017)「高知県の中古レコード」,
<https://soundlover.net/analogrecord-store/kochi/>
32. TAKAMATSU MONSTER (2019)「高松モンスター」,

- <http://www.monster.cx/>
33. TAKAMATSU OLIVE HALL (2010)「高松オリーブホール」,
<http://www.olivehall.net/>
 34. TOONICE「TOONICE RECORD SHOP&FREE SPACE」,
<http://impulse-records.main.jp/toonice/>
 35. TSUTAYA「TSUTAYA」, <https://tsutaya.tsite.jp/>
 36. The Kochi Shimbun (2006)「Music Wonderland 2018 in 天然色劇場」,
<https://www.kochinews.co.jp/article/208960/>
 37. Twitter「高松 DIME」, <https://twitter.com/dimeage>
 38. Twitter「高松 MONSTER」,
https://twitter.com/tkmt_monster
 39. Twitter「高松 TOONICE」,
<https://twitter.com/impulserecords>
 40. vkdb (2013)「B.B CAFE & HALL」,
<https://www.vkdb.jp/%B9%E2%C3%CEB.B+CAFE+%2526+HALL.html#gsc.tab=0>
 41. X-pt. (2006)「X-pt.」, <http://www.x-pt.jp/>
 42. X-pt. (2006)「ri:ver」, <http://www.x-pt.jp/river/>
 43. Yahoo Japan (2019)「Sha. La. La」,
<https://loco.yahoo.co.jp/place/g-o7-AdjQWWWQ/>
 44. ありんど高知 (2019)「高知市帯屋町にあるライブハウス&スタジオ Bee Station」,
<https://kochi-arindo.com/2017/11/22/24424/>
 45. 観光庁 (2019)「共通基準による観光入込客統計」,
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/irikom.html>
 46. 劇場歌小屋の2階「劇場歌小屋の2階」,
https://mmdlabo.jp/investigation/detail_1669.html
 47. 国土交通省 (2019)「共通基準による観光入込客統計」,
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/irikom.html>
 48. コトバンク「ライブハウスとは」,
<https://kotobank.jp/word/%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%96%E3%83%8F%E3%82%A6%E3%82%B9-655682>
 49. 食べログ「ラフハウス」,
<https://tabelog.com/kagawa/A3701/A370101/37002370/>
 50. チケットぴあ「高知キャラバンライ」,
[cket-search.pia.jp/pia/venue/venue.do?venueCd=KYAS](http://ticket-search.pia.jp/pia/venue/venue.do?venueCd=KYAS)
 51. チケットストリート「高松 DIME のアクセス. キャパ. 座席. 駐車場. スケジュール等の会場情報」,
<https://ticket.st/places/kagawa-544>
 52. とどラン (2013)「TSUTAYA 店舗数 [2013 年第一位 高知県]」, <https://todo-ran.com/t/kiji/16292>
 53. ハコナビ (2013)「高知 B.B. CAFE&HALL」,
<http://hakonavi.org/shikoku/kochi/bbcafehall/>
 54. ヒトサラ「Sha. La. La」,
<https://hitosara.com/0006033200/>
 55. ぴあ (2018)「2017 年のライブ・エンタテインメント市場規模は過去最高の見込み」,
https://corporate.pia.jp/news/detail_live_enta201806.html
 56. 開店閉店 (2019)「ライブハウス」,
<http://kaiten-heiten.com/category/sightseeing-leisure/live/>
 57. 毎日新聞 (2018)「川じゃんロックフェス」,
<https://mainichi.jp/articles/20181016/ddl/k39/200/470000chhttp://utagoya.com/index.html>
 58. 宮入恭平 (2008)「ライブハウス文化論」, 青弓社
 59. モンバス (2019)「MONSTER baSH」,
<http://www.monsterbash.jp/>
 60. ライブドアブログ「カジロックフェスティバル」,
<http://hibinokeiko.blog.jp/archives/37577859.html>
 61. ライブドアブログ「サヌキロック」,
<http://sanucolo.ldblog.jp/>
 62. ライブ部 (2019)「音楽会場総合サイト」,
<https://www.livebu.com/>
 63. 楽天証券 (2019)「音楽産業 (ソニー、エイベックス・グループ・ホールディングス、アミューズ、JVCケンウッド)」,
https://member.rakuten-sec.co.jp/web/market/opinion/stock/imanaka_weekly/0132.html

64. リトレンゴ (2017) 「香川 小豆島で日本一ゆるい “島フェス”」,
<https://www.ritorengo.com/shimafes-setouchi2018/>
65. 渡辺可奈子 「ライブハウスの利用実態と利用上の問題に関する研究」,
http://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=1&ved=2ahUKEwiKx4_Bz6ngAhXDa94KHbnHA88QFjAAegQIARAC&url=http%3A%2F%2Fwww.he.sugiyama-u.ac.jp%2Fexhibition%2Fdocs%2F092%25E6%25B8%25A1%25E8%25BE%25BA%25E5%258F%25AF%25E5%25A5%2588%25E5%25AD%25901.pdf&usg=A0vVaw1ikoFiS_DMVHf9LuzI0113